

高齢者の人権 〜児童の人権作文に学ぶ〜

9月19日は敬老の日。今回は「歳を重ねていくこと」との向き合い方について、松崎ゆらさん（作文制作時 上陽北凷学園9年生）の作文から考えてみましょう

高齢者が安心して暮らせる世の中へ

核家族が増えている世の中ですが、あなたは、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に暮らしていますか？

私は、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に暮らしています。さらに、三年前まではひいおばあちゃんとも一緒に暮らしていました。私は、ひいおばあちゃんが大好きで、学校から帰ってきたらすぐにひいおばあちゃんの部屋へ行き、九九の勉強を教えてもらったり、絵を描いて遊んだりしていました。私がいけない事をしたらものすごく怖い顔をして、いけない事だと叱ってくれました。また、スイミング教室で合格したら、とても優しくほめてくれました。そんなひいおばあちゃんですが、ここ数年の間にいろいろと介護が必要になってきまし

た。そのお世話や介護をしていたのは祖母です。ひいおばあちゃんがきつそうにしていると、好物のトマトを食べさせて元気づけたり、身の回りのお世話をしたりしていました。介護は大変とよく言われますが、祖母は嫌がるそぶりもみせず、ひいおばあちゃんが安心して暮らすように一所懸命にお世話をしていました。そんな祖母の姿を毎日見ているうちに「かっこいいな。私もそうになりたいな。」と強く思うようになりました。

そんな私が七年生になった時のことです。職場体験学習で「光陽の郷」へ行くことになりました。初めての仕事でガチガチに緊張していた私におじいちゃんやおばあちゃんたちが、ニコニコした笑顔で、「中学生ね？来てくれてにぎやかになってくれしかよ。」と話しかけてくださいました。そしていろいろと話をしているうちにいつの間にか緊張がほぐれていたこと

を覚えていきます。また、車いすを押して移動したり、昼食の時に手伝ったりする度にかけていた「ありがとう。」という言葉に、私は何だかとても温かい気持ちになって自然に笑顔になっていました。この職場体験学習で学んだことや、普段目にしていない私の祖母の姿から、私は将来おじいちゃん、おばあちゃんたちを元気づけ毎日を楽しく生活できるお手伝いをしたいと思うようになりました。介護福祉士になるという私の夢は、このような経験が深く関わっているのです。

現在、日本では高齢化社会が大きな問題のひとつとなっています。病院や介護施設での人手不足は特に深刻だと聞きます。人は歳をとると、もの忘れや判断力が低下したり、体も自分の思い通りに動かなくなったりしていくものです。今まで当たり前でできたことができなくなっていくつらい現実。実際に初めて直面する高齢者本人の不安は、想像を絶するものだと思います。その結果、誰よりも苦しく、悲しいのは、高齢者本人だといふ事を忘れてはいけないと思います。

私のひいおばあちゃんは今、介護施設に入っています。新型コロナウイルス感染症の影響で対面は

できませんが、また会えるようになったら三年前と同じようにたくさんお話をしたいと思っています。今、私ができることは、目線を合わせて優しい口調で穏やかに話さずきりと対応し、接し方を第一に考えて行動をすることです。そして、ひいおばあちゃんの笑顔をみたくしたいと思います。

これから私は、ひいおばあちゃんを含め、高齢者の方々が安心して元気に長生きできるように介護福祉士になってがんばります。高齢化社会の問題をひとつでも減らすため、自分の力を発揮して社会に貢献したいと思っています。

大好きな家族の姿や体験学習での学びから目標を見つけ、そこに込める思いを書きつづけてくれた松崎さん。高齢者が安心して暮らせる社会は、誰にとっても暮らしやすい社会へとつながります。何歳になっても笑顔でいられる八女市をみんなで築いていきましょう。

令和4年度人権
メッセージ募集中

詳細はHPやチラシ
をご覧ください。

